

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

* 上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率＝予想値÷実績

令和7年11月末	令和8年2月末	令和8年5月見通し	令和8年8月見通し
－17千トン 〔1926千トン〕 (99.1%)	＋34千トン 〔1960千トン〕 (101.8%)	－20千トン 〔1940千トン〕 (99.0%)	－14千トン 〔1926千トン〕 (99.3%)
1950千トン (101.2)	1937千トン (98.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和7年12月末	令和8年3月末	令和8年6月見通し	令和8年9月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は133,100円。前期比±0円。人手不足、働き方改革、資材高騰の影響により以前のような秋需はなかったが、夏場の悪い状況に比べれば荷動きは回復した。秋需を期待して若干積み増しした分、期待がはずれ、在庫がやや増加した。市況はなんとか維持できているが荷動きは低迷継続。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は133,300円。前期比＋200円。需要は低迷したままで前年割れが続いている。建設関連については人手不足や働き方改革の影響により需要が迷っている中、メーカー値上げ姿勢が本格化しており、流通は値上げの浸透に向け若干動いた。活況感はないが先行手配の動きも出始めた。	需要環境は更に厳しくなり在庫水準は低位で推移するだろう。スクラップ高、電力料金の値上げなどのコストアップ、更に中東情勢の要因によりメーカーによる必要な大幅値上げの公算が大きい。流通はそれを見越しての販売となり需要低迷が続く中、メーカーの価格上昇分を市場へどう価格転嫁できるかが焦点となるだろう。	建築需要の低調に加え原油由来の資材不足などネガティブな不況感が漂っている。働き方改革の影響により需要量が稼働日に比例するようになってきており8月は期待できない。需要が少ない中での価格転嫁に尽力することと9月以降の需要に期待を寄せる声も挙がっているが、中東情勢の影響で工期遅延も散見され、今後これ以上悪化しないことを祈るのみである。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

4月仕入量は137,341トン前月比-6.6%、前年同月比-0.9%、販売量は144,208トン前月比+2.7%、前年同月比-1.0%。仕入量は前月比減少、前年同月比微減、販売量は前月比増加、前年同月比減少しています。在庫量は209,693トン前月比-3.2%、前年同月比+4.2%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は145.4ポイントと下降しました。4月販売量は前月比増加となっていますが、相変わらず需要は低迷したままで前年同月比では減少を継続しています。需要の少ない中、流通各社はメーカー値上げの価格転嫁に尽力している状況です。

4. 大阪

4～6月はGWもあり稼働日が少なく特に5月は減少。6月の出荷予想では5月比は稼働日も多く増加予想も、需要面は建築・製造業ともに低位横ばい。

自動車メーカー各社は、概ね生産は回復してきており、生産水準を上げている自動車メーカーもあるが、メーカーによっては未だ苦戦しているところもあり濃淡がある。

7～9月の見通し、建築・土木向けとも定位横這いが続きそう。中東情勢の悪化でナフサ、シンナー、塗料不足が発生し、需要の停滞も懸念されているが、今のところ、多少の工事延期は聞こえてはくるが、大きな問題にまではなっていない様子。また、8月はお盆休みと暑さから季節的に需要は落ち込む予想。

自動車は、国内新車販売は、大幅な伸びは見込みにくく、概ね横這いで推移する見通し。